

“映画と絵画には
共通点がたくさんあります”
——山田氏



館長対談
vol.2

“ヴァロットの作品は、
まるで心理劇を見ているような
気分させられます”
——高橋館長



ゲスト

山田洋次 さん (映画監督)

Interview _ Yoji Yamada

人間の喜怒哀楽を切り取る芸術—映画と絵画

今回お招きしたのは映画監督の山田洋次さんです。
山田監督は今年1月に新作映画『小さいうち』を発表したばかり。
「人間の喜怒哀楽を切り取るその面白さが創造の源」と語る山田監督と
映画の先駆者、とも評される、ヴァロットの話で盛り上がりました。



高橋 山田監督、お久しぶりです。最新作『小さいうち』は、絵から始まって絵で終わるプロットが印象的な作品でした。実景から絵へと自然に変わるエンディングロールも物語の世界観をよく表していて素晴らしいです。
山田 ありがとうございます。
映画『小さいうち』の原作は直木賞を受賞した中島京子さんの同名小説で、有名なバージニア・リー・パトンの絵本「ちいさいうち」も物語の終盤に大きな鍵を握っていて、絵がとても重要なモチーフになっている映画です。本作に登場する絵は、画家で二期会副理事長の藪野健さんに描いてもらいましたが、エンディングロールの絵で苦労しましたね。

山田洋次(やまだ・ようじ)
1931年、大阪府生まれ。1954年東京大学法学部卒業。松竹入社。1961年『二階の他人』で監督としてデビュー。代表作に『男はつらいよ』『幸福の黄色いハンカチ』『たそがれ清兵衛』『武士の一分』『母べえ』『東京家族』等多数。最新作は2014年1月公開の『小さいうち』。